

# ある日突然、襲ってくるもの

— 脳梗塞からの生還 —

## 第5回：心の何かが動いた

※三角波：時化した海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う。

私が原田豊さんを存じ上げるきっかけとなったのは、1996年、英国ニュースダイジェスト誌の人物紹介欄に原田氏が登場されたときだった。原田氏は当時、日系鉄鋼メーカー欧州社長の任期を満了し、ロンドンでビジネス・コンサルタントとして、ビジネスを立ち上げたと述べておられ、一流会社から新たな飛躍をされた原田氏の姿が深く印象に残っている。今回は、2016年に脳梗塞を発症された原田氏がいかに病を克服してきたか、原田氏の人生の三角波をお聞きする、全5回シリーズ。

(センターピープル代表取締役 飯塚忠治)



原田豊さんプロフィール

山口県出身。1965年東京外語大卒業。趣味はミュージカル鑑賞と、愛犬と一緒に近所の公園を散歩すること。週末には奥様と近所にお住まいの一人娘のお嬢さんと一緒においしいワインを楽しむという、家庭を大切にされるジェントルマンである。

2016年12月29日の早朝、原田氏は突然、脳梗塞に襲われ救急車で病院へ。それからほぼ1年半が経過した。7カ月に及ぶ入院生活の後、現在は自宅でご家族の温かいサポートはもとより、医療関係者の協力や多くのご友人の励ましの中で、不自由になった身体の回復に向けリハビリに励んでおられ、明るい兆しを感じられている原田氏。そんな同氏に、奥様の美弥子さん、お嬢さんの智美さんと共にこの1年半余りを振り返り、脳梗塞、入院、そしてその後について、体験をお話いただく。脳梗塞はそれなりの年齢になると誰にも発症する可能性がある疾患。原田氏は、ご自身の体験が読者の皆様のお役に立てばと、この対談を快諾して下さった。



飯塚 原田さん、奥様の美弥子さん、そしてお嬢さんの智美さんに、この対談企画をご快諾頂いてから、ここに至るまでほぼ一年が過ぎました。この間、原田さんの体調の変化、また、コミュニケーションが思うようにいかないなどの難しい局面も経て、

こうして読者の皆様に対談記事をご紹介することができるようになりました。今回は、この対談シリーズを始める直前に頂いた、原田さん、美弥子さん、そして智美さんのご家族3名の署名入りメールを是非ご紹介させて頂き、5回に渡ったシリーズの完としたく思います。

【路半ば 見上げる空は 梢星】 飯塚忠治

### 飯塚さんへ

先日飯塚さんから送って頂いたインタビューのための質問の数々から、この1年あまりを振り返り、改めて自分た

ちの気持ちや考えを整理する機会を頂いています。質問によって新たに得ることができた気付きの一つを、今の私たちから伝えられるとしたら、それは健康の大切さというより、あえて言うなら生きるということについても知れませんが、

生きること、と言うと壮大な言葉に聞こえるかも知れませんが、脳梗塞発症後かなり快復してきたとはいえ、まだ道半ばである私たちが、現時点で健康の大切さを語るのには難しいと感じており、同時に現在私たちがここまで来ることができたのは、健康(=脳梗塞発症前の状態)という過去に固執せず、今と未来を信じて一歩一歩進んできた結果なのだという気がしています。飯塚さんから質問を頂くまでは、この1年余りの体験をここまで深く考えたことはなく、自分の気持ちを内観するとともに、父や母とも話しましたが、2人とも私と同じ気持ちだということでした。

言葉でうまく伝えることができるかどうか分かりませんが、家族の一人が脳梗塞を経験したことによって、私たち家族の中では「健康=幸せ」という固定概念がなくなりました。健康や病気の予防はもちろん大切です。ただ一方で、もしやむを得ずそれを失ってしまったとしても、失ったものや、過ぎてしまった過去に目をやるのではなく、「今ここ」に向き合う。これは健康をあきらめたというのではなく、今できることをやる、その積み重ねが大事なのだと思います。ですから、夢や希望、チャレンジしたいことがたくさんあり、やりたいことに一つひとつチャレンジしていきたいと思っています。そして父と話しながら、こういった考え方が、入院中も退院してからも、父のメンタルがほぼ安定している要因でもあるのかなと感じています。

2018年8月現在 退院から早くも1年が過ぎ現在は週

2日のリハビリに通いながら、懇意にしてくださっている素敵な方たちとバブへ行ったり、ピクニックをしたり、家族でドライブに行ったりと今年は例年以上に忙しい夏を過ごしました。会うたびに元気になっていとおっしゃって頂いたり、セラピストにも快復の度合いを褒めてもらえる機会が多くあり、それがもっと元気になるというモチベーションにもなっています。これからも更なる快復に向けてのチャレンジは続きます。

飯塚さん、このような機会を頂きありがとうございました。

原田豊、美弥子、智美



7月28日、ハートフォードシャーのラドレットにて。左から、渡辺さん(歌人)、美弥子さん(奥様)、原田さん、智美さん(お嬢さん)

ご友人からのお見舞いの短歌

一年と七カ月後に約束を果たして、今日の集ひ嬉しき

(歌人 渡辺幸一さん)

本コラムの過去記事は、下記アドレスでご参照いただけます

[www.centrepeople.com/japanese/article](http://www.centrepeople.com/japanese/article)

Presented by **centre people**  
Recruitment Consultants

情報を発信し続けるセンターピープルは、人材紹介、派遣のエキスパートです。誠意をもって心をこめたサービスを企業様、ご登録者の皆様に提供することを常に目指しております。